

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	〒807-1307 福岡県鞍手郡鞍手町室木801番地		TEL0949-43-3900
自己評価作成日	平成23年1月26日	評価結果確定日	平成23年02月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成 23年02月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かえでの理念は「こころ」。スタッフの一員としていつも思っている事です。 利用者の穏やかな日々の生活の中で、明るく楽しく、安心して生活してゆける「家」であるように努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム かえでは自然環境に恵まれた郊外の広い敷地の中にあり、駐車場の梅の古木や中庭の楓の大木、四季を彩る草花等、利用者が季節を五感で感じ取る様々な工夫がされている。「温もり、優しさ、安心」を理念の柱としてホーム長、管理者、職員が一体となり、利用者の目線に立った介護サービスを実践し、いつまでも、穏やかで、楽しい暮らしの継続を目指している。開設7年を迎え、職員の異動も少なく、利用者職員は家族のような、心配したり、されたりの関係で、笑いのある会話が、弾んでいる。「ふれあいフェスタ」「徘徊ネットワーク」や、地域行事等に参加し、特に、地域の小学生との交流は活発で、双方が楽しみにしている行事の一つである。また、利用者の健康管理は、24時間相談できる病院と連携し、利用者が安心して暮らせる支援体制の確立を目指している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“ぬくもり、やさしさ、安心 そして地域とのふれあい”という理念に基づき、日頃のケアミーティングでの話題や地域のイベントへの参加を通じて全職員の意識の向上に努めている	『心』を基本理念に、ぬくもり、やさしさ、安心、地域とのふれあいをモットーとし、ミーティング時に繰り返し話し合うことで理念を共有し、全職員が心を一つに、日々の実践に繋げている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気候のいい日は利用者と建物周辺を散歩し、近隣の方との交流を深めている。また、日用品や食品は地元の店舗で購入するようにしている	地域の小学生が、歌や太鼓の演奏に訪れ、けん玉、おはじき、カルタなど、利用者と一緒に楽しい時間を過ごす交流を続けている。また、盆踊りなどの地域の行事にも参加し、老人会のボランティアの受け入れなど、地域とのふれあいを大切にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の散歩の際には、必ず挨拶を交わすようにしている。また、地区長の協力により、毎月の事業所の発行物を各地区に回覧し、地域の方の訪問へのお礼や、認知症の方の豊かな生活の広報につなげている	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごと(奇数月)に開催し、地域の有識者や家族代表を交えての報告や話し合いを、事業所内のカンファレンスで検討し、ケアのあり方や運営方法の見直しに活用している	会議は、利用者家族、区長、民生委員、行政職員、又、有識者として元利用者の家族や前民生委員の方々が参加され、併設の小規模多機能ホームひいらぎと合同で、2ヶ月毎に開催している。会議では、状況報告、行事報告の他にもいろいろな議題について話し合い、出された意見は検討し運営に活かしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	街の福祉イベントに参加したり、二ヶ月に一度の運営推進会議には町役場の職員に参加していただき、事業所の近況報告や公での福祉関係の最新情報の収集に努めている	町のふれあいフェスタに参加し、また、運営推進会議にも行政職員が必ず出席し、情報交換すると共に情報を共有し、協力関係を築くよう努力している。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯目的での夜間帯の施錠は行なっているが、日中は門と玄関は開錠している。身体的拘束においても、ベッドや車椅子からの転落防止を目的に、拘束や柵の乱用する事無く、安全を確保する為の工夫を行なっている	身体拘束廃止マニュアルを作成し、外部研修、内部研修を行い、全職員は、身体拘束が利用者に与える身体的、精神的苦痛を正しく理解し、利用者の安全を確保しながら拘束のないケアに取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学ぶ機会を持ち、その研修で得た知識を事業所内でのケアミーティングで、スタッフ間の共有を図るようにしている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には積極的に参加し、制度についての理解を深め、ケアミーティングなどの事業所内研修にて理解の共有に努めている。	権利擁護に関する外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレット、資料を揃え、内部研修で知識の共有に努め、いつでも必要な時に対応できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安や疑問点などがあれば、安心してご利用契約が結べるような説明を行うように心がけている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に可能な限り家族代表も参加していただくようにしている。また、利用者別に行なっている担当者会議にも、出来る限り本人や家族に参加していただき、意見の交流が交わしやすい関係作りにも努めている	意見箱を設置し、家族の来訪時、運営推進会議時に、意見、要望、心配事を聞き取る努力をしている。出された意見、要望は出来るだけ運営に反映させている。	家族の心情を察して、家族の抱える悩み、心配事などを話しやすい環境を整えて、利用者、ホーム、家族が協力して介護サービスの質の向上と、より良いホーム運営に向けて積極的に意見を反映していく事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月合同ミーティングを開き、個々の意見を出す機会を設けている	毎月1回の職員ミーティングは、代表、管理者、職員が意見を持ち寄り、活発に話し合わせ、出来るだけ職員の意見が運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれのケア能力や家庭の事情を考慮し、必要に応じて労働時間の変更や、研修制度の導入など、各々がやりがいを持って働けるよう、環境整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に性別や年齢の制限は無い。また、職員が個々の能力を十分に發揮できるよう、資格取得のための研修への参加を推進し、シフト調整を行なっている	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別によって区別することはなく、実際、幅広い年齢の職員が個々の能力を發揮し、生き生きと働いている。また、職員のスキルアップのための資格取得や研修参加についても、シフトを配慮したりの応援体制で支えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティングや日頃の職員の申し送りや会話等で、利用者の人権尊重の大切さを深く理解する機会を作っている	外部研修に参加し人権について学んできた職員が、内部で伝達研修を行うと共に、ホーム長が常日頃からホームの理念のもとに、利用者の尊厳について話す機会を設け、その想いは全職員に浸透している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のケア能力や環境に応じて、研修参加への機会を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のイベントや福祉イベントに積極的に参加したり、利用者の空き状況の確認や高齢者見守りネットワーク参加などの福祉情報などのやり取りを通じて、福祉サービスの向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言動や表情に注意を払い、どんな事に不安や不便、悩みを感じているかを出るだけ早い段階で把握し、対応を行う。随時、状況の変化を見て信頼関係が築けるようなケアを行なう		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階から出来る限り家族の方と話し、具体的な不安や悩みを把握できるようにコミュニケーションをとっている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時、御本人と家族の思いを汲みながら、対応の問題や困難な問題等、共に解決方法を見つけられるように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは介護する立場であっても、利用者と共に洗濯物を置んだり食事を摂ったり共に生活をする事で、癒されたり元気を戴いたり、同じ目線立場でお互い支えあっている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者に対する思いを普段のコミュニケーションを通じて理解し、その気持ちをくみ取るようなケアを目指している		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた故郷(地元)や、友人、知人の元を尋ねたり、手紙や電話での交流を支援している	利用者の希望を聴きながら、入居前に住んでいた利用者の家の片付けに同行したり、家の周りをドライブしたり、会いたい人を訪ねたり、馴染みの人や場所との関係が途切れてしまわないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者同士の相性を把握し、リビングでの席を用意したり、コミュニケーションを図りづらい利用者同士の関係には、間に職員が仲介し、孤独感を持たないように支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、ホーム利用期間中の折々の様子を撮影した写真をアルバムにまとめて家族にお渡しし、その後も本人や御家族の相談や支援にお応えするように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの人格を尊重し、希望や意向の把握に努めている。会話による把握が難しい場合には、過去の生活歴や家族からの情報、また利用者の表情などからくみ取る様に努めている	利用者、また、職員の異動が少ないため、馴染みの関係から比較的用户の思いや意向の把握はしやすい。毎日の暮らしの中の利用者の言葉や、表情などから、その人が何を望んでいるのかを把握することに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人と可能な限り会話をする事で、これまでの生活歴を把握するように努めている。また御家族や周囲の方、医療関係者など利用者本人と関わる方々の話を聞く事から、より多くの情報を得るように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の訴えや食事の摂取量、バイタルなどから、心身の状態や残存機能の把握に努めている。また、会話だけでなく表情や姿勢からも読み取るようにし、無理の無い一日の過ごし方を把握するように努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎回、全スタッフ参加によるケアミーティングを行なっている。また担当者会議では、本人・家族・スタッフ・ケアマネージャーで話し合い、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議には、利用者、家族も参加し、その意見、要望を取り入れながら、ケアミーティングで職員全員が話し合い、情報を共有し、計画は3ヶ月毎に見直し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一時間毎の様子やケアの実践を個別記録に記入する他、一日に二度、職員の交代時に申し送りの時間を設け、職員間の情報の共有化やより良いケアの実践に活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院の送迎や個別の買い物への同行を始め、散歩・理髪・地域の催しへの参加など、その時々ニーズに合わせて、柔軟で多機能なサービスに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に数回、近隣の小学校の社会勉強の一環として、ふれあい交流会を行なっている。また、地区の盆踊りの訪問や、老人会の協力を得て、年末の餅つきや踊りの慰問等の交流がある		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意思を尊重し、かかりつけ医を受診している。また、月に2回往診に来てもらい、細かい事も相談・報告できるようにしている	利用者や家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診を支援している。また、ホームの提携医の定期的な往診があり、緊急時の医療連携体制を確立し、24時間安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の小規模多機能施設の非常勤看護師や、かかりつけの病院からの訪問看護師に、利用者の小さな変化を常に相談し、アドバイスなどの対応を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	夜間でもすぐに対応できる医療機関に掛かり、入院時にもまめに見舞いに伺ったり家族や主治医から近況を聞くようにしている。それと共に退院の時期や今後の治療方針などの情報交換に努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期の対応を行っていない旨を入所時に本人や家族に説明しているが、重度化した場合は事前に家族に今後の方針を相談したり、かかりつけ医と緊急時の話し合いを行なっている	重度化した場合や、終末期に向けて、利用者、家族の希望を聴きながら、関係者全員で今後の方針について話し合い、共有している。ホームで出来る事、出来ない事を見極め、判断しながら、重度化へ向けた指針を検討中である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作り、職員全員が目を通せるところに置いている。また応急処置の研修に参加し、ミーティングなどで全員に説明し情報の共有を図っている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで避難訓練を行い、避難経路・避難場所等を全職員が把握できるようにしている。災害研修は、施設近隣に住む職員を皮切りに進んで参加するようにしている	マニュアルを作成し、消防署の指導のもと避難訓練を行い、緊急の場合の連絡方法、避難経路、避難場所などを確認し、災害時に備えている。	今後は、地域住民の協力を得ながら、夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者全員が人生の先輩であるという事を理解し、声掛けや対応に気配りを行なうようにしている。個人情報の取り扱いにも十分配慮している	ミーティング時に、利用者の尊厳を守るという事はどういう事なのかを繰り返し話し合い、全職員が思いを共有し、日々実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を優先に心がけて対応を行うようにしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位の日々の予定は作らないようにし、利用者一人ひとりの体調や気分、精神状態などを大切に、本人の希望を優先するような支援を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者にあった装いを、一緒に話し合っ支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が作った季節の野菜や利用者の家族からの差し入れを料理に取り入れ提供している。下膳・テーブル拭き等、残存機能を活かせることを共に行い、音楽を流したり一緒に世間話をしながら食事を摂っている	利用者の希望を献立に取り入れながら、季節の野菜をふんだんに使った、各ユニット毎の職員手作りの食事を、利用者一人ひとりの状態に対応した形態にして提供している。利用者と職員は、同じテーブルを囲み、会話しながらの楽しい食事光景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や食欲に配慮しつつ、食事の提供を行なっている。一度に摂取できない方には、時間を空けてこまめな食事や水分の摂取を、嚥下が困難な方には刻みやお粥、水分にはトロミをつけて提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守りによる口腔ケアを最低でも一日一回は行なうようにしている。介助が必要な方は、加えて口周りを温かいおしぼりで拭くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、適切な時間と用具で排泄の介助を行う	利用者の排泄チェックシートや水分摂取量から、利用者一人ひとりのパターンや習慣を把握し、細やかな声かけ、誘導を行いながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便のチェック表を作成し、飲食物の量や内容を把握、調整して、毎日の体調(快便)に気を配るようにしている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に応じて入浴の介助を行う。曜日や時間の制約は無い	入浴は、特に曜日や時間が決められていないため、利用者の希望を聴きながら、週に3回を目安に入って頂くよう、個々にそった支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、一人ひとりの体調や生活パターンに添って休息や入眠をいただいている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量に変更があるときには、必ず職員が把握できるように薬ケースに入れ申し送りノートに記入、口頭でも申し送りをを行い、全職員が周知するようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じてイベント、ドライブ、買い物など、個々の希望や体調に応じて支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせてホーム周辺を一緒に散歩したり、家族の協力を得て自宅への外出や外泊、馴染みの場所へのドライブなどを支援している	利用者の介護度も年々上がり、全員揃っての外出が少しずつ難しくなっているが、利用者それぞれの体調や気分、希望に合わせて、散歩や買物、ドライブなど、戸外に出かける支援をしている。また、広いウッドデッキに出て中庭を眺め、外の空気を感じることは、利用者の気分転換にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて一緒に買い物に行っ て好みのものを購入したり、同行できない時 には職員が代行して購入し、お渡しするよう にしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	本人が手紙を読み書きできない場合は、届 いた手紙を職員が代読したり、利用者の希 望に応じて職員が電話を掛け、本人に取り 次いでお話ししていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居 心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは利用者が常に快適に過ごせるよう に温度や明るさに気を配っている。また、月・ 日・曜日をわかり易く表示し、七夕やクリスマ スの飾り付けによって季節感を取り入れている	ホームには、花や絵画、職員手作りのお雛様 や折り紙の作品が飾られ、季節感のある家 庭的な雰囲気である。また、畳コーナーや、 居間から繋がる日当たりの良い広々とした ウッドデッキは、利用者が居心地良く過ごせ る共用空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	居間には唱歌や昔の流行歌の歌詞を書い た可動式の掲示板があり、気の合う利用者 同士で歌を歌うスペースを作る事が出来る。 中庭に繋がるウッドデッキにはベンチを置 き、利用者が思い思いに日光浴をしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、 本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	居室にはそれぞれ好みの家具やテレビが置 かれ、家族の面会時には一緒に過ごされて いる。壁には家族の写真や民芸品なども飾 られている	居室は8畳と広く、木材がたくさん使われ温か みのある作りとなっている。部屋には、利 用者の馴染みの家具が置かれ、写真や絵が飾 られ、利用者が落ち着いて過ごせるような配 慮がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっており、廊下やトイ レ、風呂場に手すりを設置している。また居 室も残存機能を活かせるように、必要に応じ てベッドからの起き上がりや車椅子への移 乗時のための手すり等が工夫されている		